

C-1 指導案

1 単元名 住民として地方の政治を考えよう

2 単元の目標

- ・地方自治の基本的な考え方を理解し、議会制民主主義の意義について考えようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・まちの財政状況やしぐみを理解し、自分のまちをより住みよくするための方策を考える。
(思考・判断)
- ・自分の町の情報を表す資料を的確に読み取り、その特徴をつかまえる。(技能・表現)
- ・地方公共団体の政治のしくみについて理解し住民としての自治意識を身につけるとともに、地方公共団体のしくみと住民の権利や義務とを関連させて理解する。(知識・理解)

3 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、地方自治の基本的な考え方や、地方公共団体のしくみや仕事を理解させるとともに、住民としての自治意識の基礎を、住民の権利と義務と関連付けて育んでいこうとする単元である。また、地方公共団体が抱える今日的課題を地方財政の変化から捉えさせ、生徒に自らが生活するまちをより住みやすくするための方策を考えさせたい。

また、地方自治の学習は、次の単元である国の政治の学習の導入的な側面もある。ブライスがいう「地方自治は民主主義の学校」を意識しながら、住民の政治参加が、民主主義の第一歩であるということを学ぶ単元でもある。

(2) 生徒観

担任をしている学年ではないが、2年時から社会科を担当している生徒が半分くらいいる。2年の時はどちらかというと意欲的に学習に取り組む雰囲気ではなかったが、3年になり意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきた。1学期末におこなった生徒の授業アンケートでも、「授業のねらいが明確であるか」(そう思う・だいたいそう思うあわせて、96.9%)、「授業のスピードがちょうど良いか」(同、93.8%)、「授業の雰囲気は真剣に取り組めるものか」(同、87.5%)などの質問に対しても好意的に捉えており、前向きに授業に取り組んでいる生徒が多いように感じている。ただ、まだまだ基礎が定着していない生徒、授業中油断する生徒もおり、机間指導などで個々の支援が必要である。

地方行政については、小さいときから図書館や児童センターなどの施設を利用してきた生徒も多いので、身近な問題を取り上げながら、生徒が興味・関心を持って授業に取り組めるよう工夫していきたい。

(3) 指導観

地方自治の課題を、身近な加賀市の問題と関連づけて考えられるよう、具体的なグラフ・統計資料などを効果的に用いるなど工夫していきたい。また、特に地方財政では、既習した国の財政を振り返り、関連付けながら授業展開していきたい。

また、身近な問題を例にあげながら地方公共団体のしくみや課題をつかませ、中立性に留意しながらその解決策について主体的に関わるという視点から生徒に思考させたい。その際、ペア学習、グループ学習などを効果的に取り入れるなど学習形態も工夫していきたい。

4 本時の学習

(1) 小単元(題目等)名 地方財政の現状と課題

(2) 本時のねらい

- ・加賀市の歳入・歳出の表から、加賀市の財政の特徴を読み取ることができる。(技能・表現)
- ・加賀市の財政の特徴を踏まえ、加賀市の財政をより良くするための方策を考えることができる。
(思考・判断)

